ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2012.6. 26
No.415

青森銀行

平成 24 年夏のボーナス調査

―レポートの概要―

○ 平成 24 年夏のボーナス受給見込額は、平均で昨年夏を 3 千円上回る 35 万 2 千円となった。一方、ボーナスの希望額は平均で 48 万 8 千円となり、受給見込額との間に 13 万 6 千円の乖離を生じた。なお、今夏のボーナスの伸び（見込み）は、昨年夏に比べ、「良くなる」が増加、「悪くなる」は減少した。この結果、期待指数は昨年夏に比べ 10.4 ポイント上昇した。

○ ボーナスの使途計画は、「消費」割合が 41.3%、「貯蓄」割合が 42.2%、「返済」割合が 16.5%となり、昨年夏に比べ「消費」割合、「返済」割合が上昇し、「貯蓄」割合は低下した。
「貯蓄」の目的については、昨年夏同様、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が最も高く、「老後の備え」、「教育」がこれに次いだ。

○ 最近の暮らし向き調査では、「良くなった」とする割合がほぼ横バイ、「悪くなった」とする割合は 6.7 ポイント減少した。この結果、暮らし向き指数は 23 年冬に比べ 3.5 ポイント上昇し 41.9 となった。

1．平成 24 年夏のボーナス調査

(1) ボーナス受給見込額

――平均 35 万 2 千円、昨年夏の実績を 3 千円上回る――

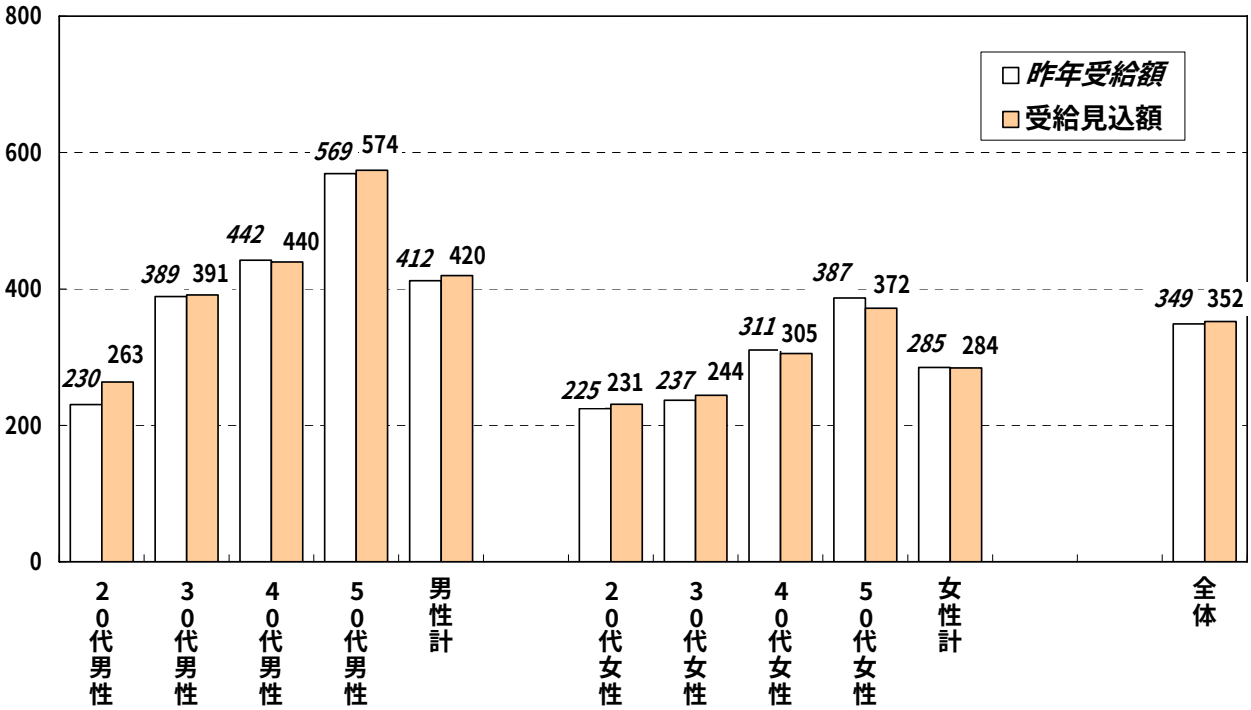
県内給与所得者が予想する今夏のボーナス受給見込額は、全体の平均で 35 万 2 千円となり、回答者の昨年夏の受給実績(平均 34 万 9 千円)に比べ 0.9%、3 千円上回った。これを男女別･年代別にみると、最も見込額が多かったのは 50 代男性の 57 万 4 千円で、次いで 40 代男性の 44 万円、30 代男性の 39 万 1 千円、50 代女性の 37 万 2 千円などの順となった。

男女別の平均受給見込額を比較すると、男性が 42 万円、女性は 28 万 4 千円と、男性が女性を 13 万 6 千円上回った。

年代別に今夏の受給見込額と昨年夏の受給実績との開きをみると、40 代男女及び 50 代女性で見込額が受給実績を下回るとしているが、その他の年代では上回る見込みとなっている。その差額をみると、20 代男性(3 万 3 千円上回る)、50 代女性（1 万 5 千円下回る）が目立っているが、その他の年代は 1 万円以内にとどまっており、今回調査において乖離幅は全体に小幅であった。

(以上、1 図参照)

(1図) ボーナスの受給見込額 (男女別･年代別)

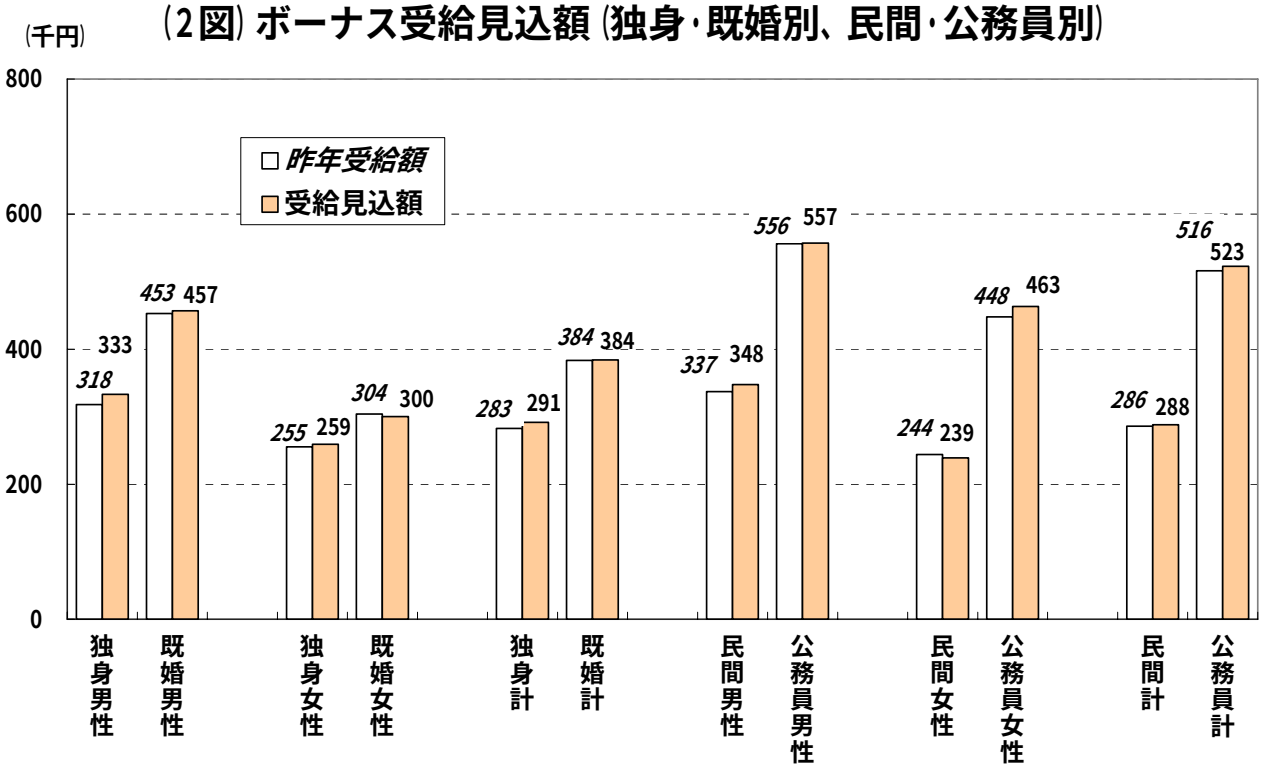


次に、平均受給見込額を独身･既婚別にみると、独身者が 29 万 1 千円、既婚者が 38 万 4 千円となった。昨年夏の受給実績と比べると、独身者が 8 千円上回り、既婚者は横バイと見込んでいる。独身者は男性の見込額が受給実績を 1 万 5 千円、女性は 4 千円それぞれ上回った。一方、既婚者は男性が 4 千円上回ったが、女性は 4 千円下回った。

また、民間･公務員別でみると、民間が 28 万 8 千円、公務員が 52 万 3 千円となった。昨年夏の受給実績と比べると民間が 2 千円、公務員は 7 千円それぞれ上回ると見込んでいる。男性は民間が 1 万 1 千円、公務員が 1 千円それぞれ上回った。一方、女性は民間が 5 千円下回り、公務員は 1 万 5 千円上回った。

(以上、2 図参照)

(2図) ボーナス受給見込額 (独身･既婚別、民間･公務員別)



(2) ボーナスの希望額

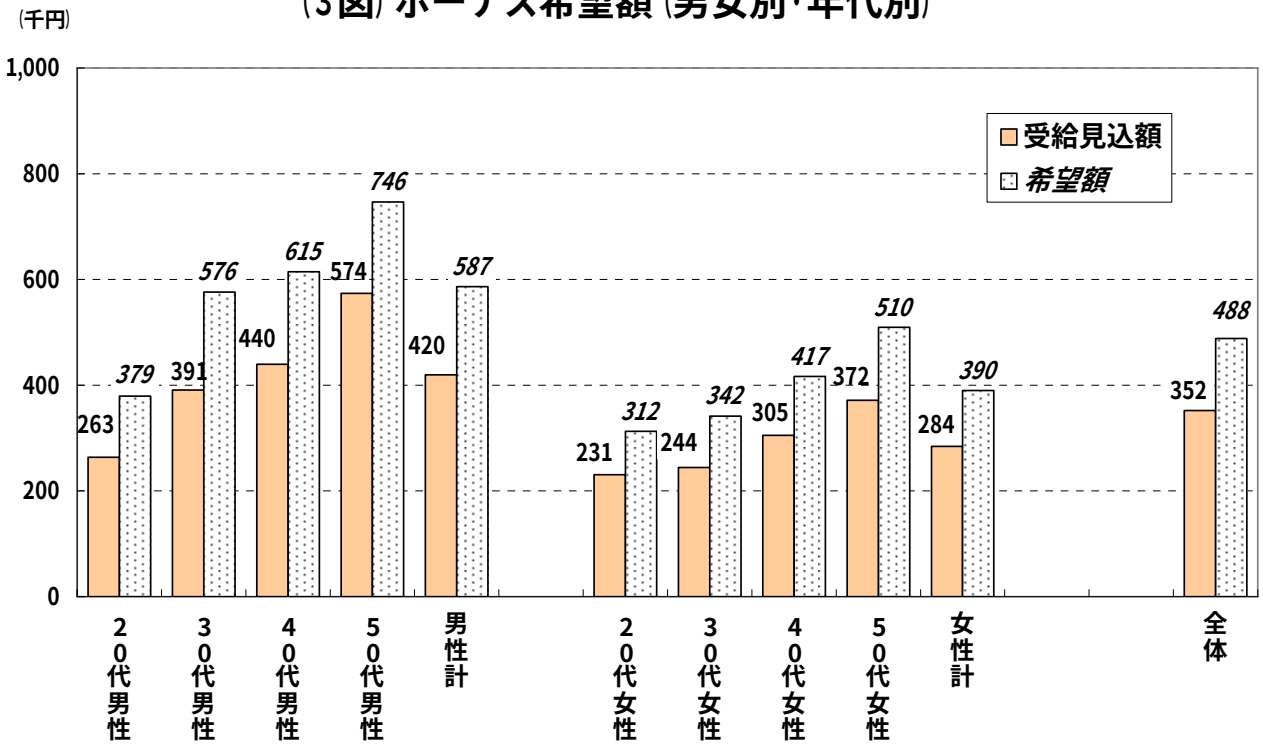
――ボーナス希望額、平均 48 万 8 千円――

今夏のボーナス希望額は全体の平均で 48 万 8 千円となり、受給見込額 35 万 2 千円との間に 13 万 6 千円の乖離を生じた。

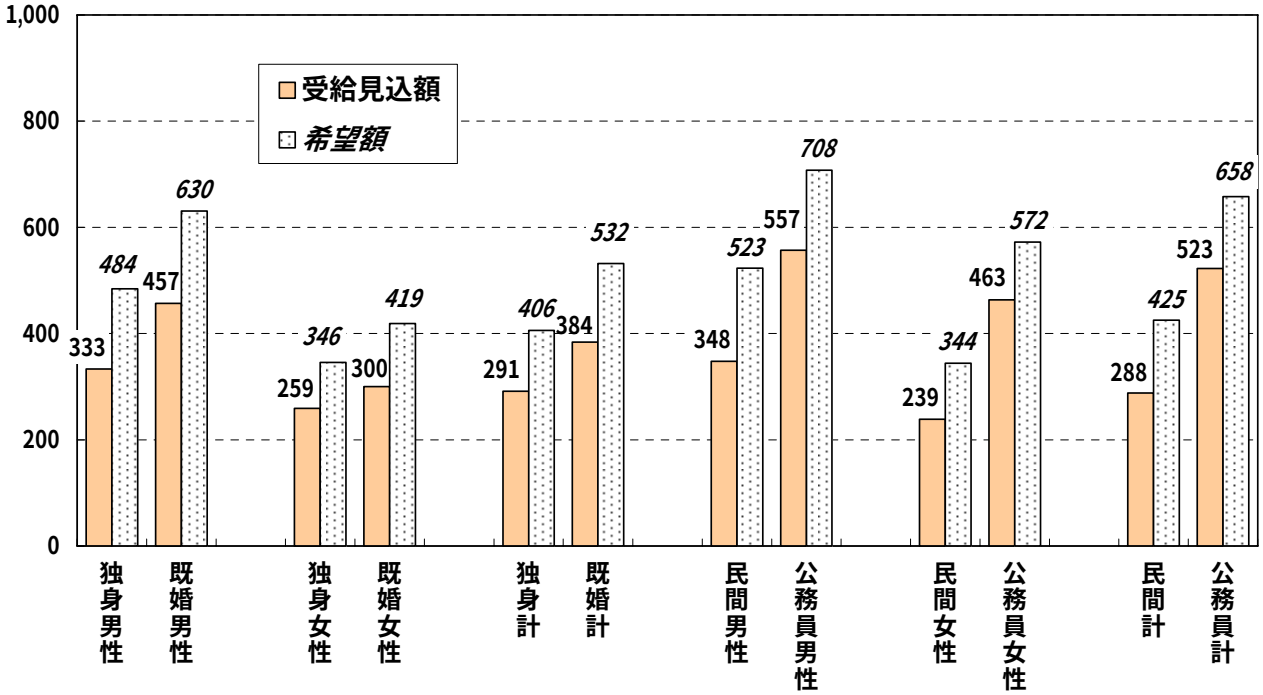
平均希望額を男女別･年代別にみると、最も多かったのは 50 代男性の 74 万 6 千円で、次いで 40 代男性の 61 万 5 千円、30 代男性の 57 万 6 千円、50 代女性の 51 万円などの順となった。希望額と受給見込額との乖離幅をみると、30 代男性が 18 万 5 千円で最も大きく、次いで 40 代男性の 17 万 5 千円、50 代男性の 17 万 2 千円などとなり、各年代とも男性の方が女性に比べて希望額と見込額との開きが大きかった。また、独身･既婚別にみると、男女とも既婚者は独身者よりも開きが大きく、既婚男性は 17 万 3 千円の乖離幅となった。民間･公務員別でみると、民間男性で 17 万 5 千円と乖離幅の大きさが目立った。

(以上、3、4 図参照)

(3図) ボーナス希望額 (男女別・年代別)



(4図) ボーナス希望額 (独身・既婚別、民間・公務員別)



(3) ボーナスの伸びについて

――期待指数、昨年夏に比べ 10.4 ポイント上昇――

今夏のボーナスの伸びは昨年夏に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は全体の 9.9%、「悪くなる」が 23.0%、「変わらない」が 67.1%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5 図、注記参照)は 43.5 となった。

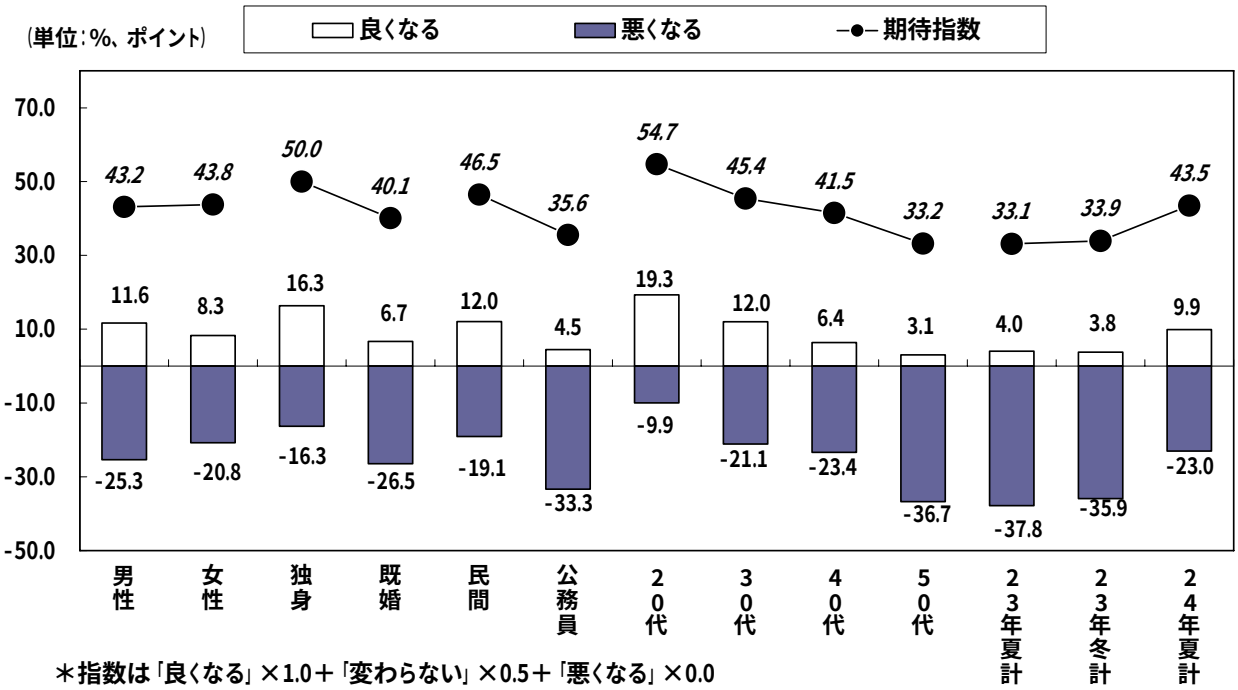
昨年夏に比べると「良くなる」が 5.9 ポイント増加、「悪くなる」は 14.8 ポイント減少し、期待指数は 10.4 ポイント上昇した。22 年冬と比べても、期待指数は 9.6 ポイント上昇しており、ボーナスの伸びへの期待感が改善されている様子がうかがわれる。

属性別にみると、20 代は「良くなる」とする回答が 19.3%と、「悪くなる」の 9.9%を上回り、期待指数は 54.7 となった。各年代とも期待指数は昨年夏(30 代:34.0、40 代:27.3、50 代:26.0)に比べ、改善がみられた。また、独身者は「良くなる」と「悪くなる」がともに 16.3%で同率となり、民間では「良くなる」が 12.0%と比較的高い割合を示した。

ボーナスの伸びについては、依然として年代が進むにつれて低下傾向にあるが、若年層を中心に改善傾向がうかがわれる。

(以上、5 図参照)

(5図) ボーナスの伸び



＊指数は「良くなる」×1.0＋「変わらない」×0.5＋「悪くなる」×0.0

(4) ボーナスの使途計画

――「消費」、「返済」割合が上昇、「貯蓄」割合は低下――

この夏のボーナスの使途計画は、「消費」割合が 41.3%、「貯蓄」割合が 42.2%、「返済」割合が 16.5%となった。昨年夏に比べると、「消費」割合が 1.7 ポイント上昇、「返済」割合が 0.8 ポイント上昇した。一方、「貯蓄」割合は 2.5 ポイント低下した。

男女別にみると、男性は「返済」割合、女性は「消費」、「貯蓄」割合が高かった。独

身･既婚別では、独身者は「消費」、「貯蓄」割合が高く、既婚者は「返済」割合が高かった。民間･公務員別では民間が「貯蓄」割合、公務員は「返済」割合が高かった。

(以上、1 表参照)

(1表) ボーナスの使途計画

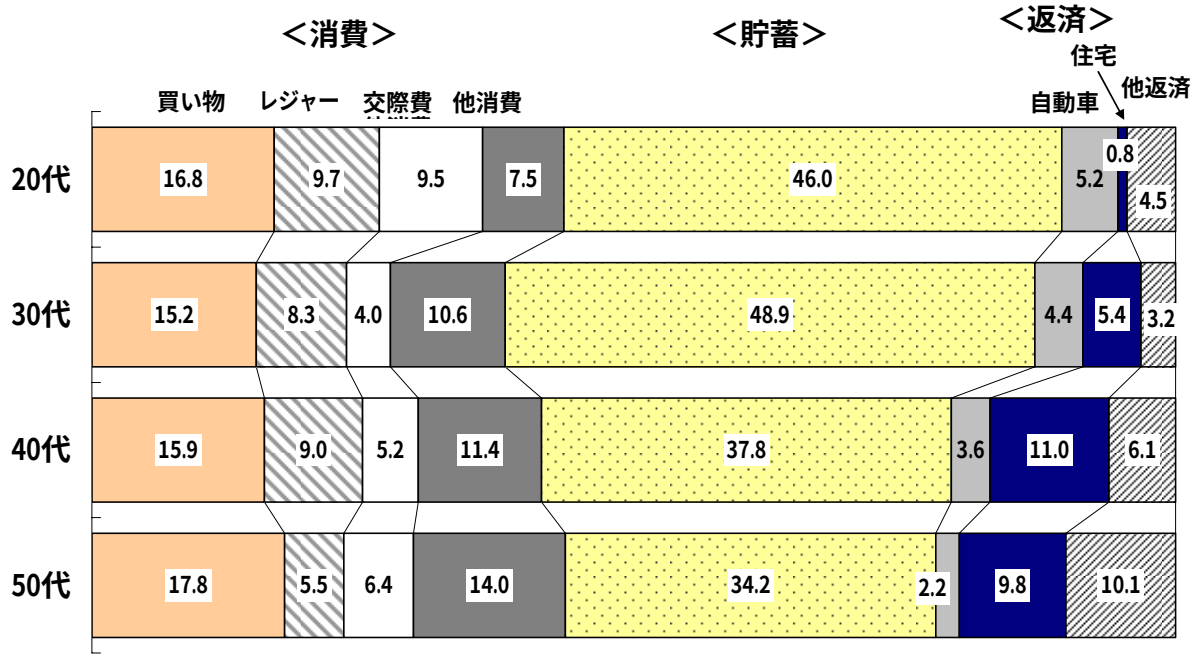
(単位:%)

	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
		買い物	ﾚｼﾞｬｰ	交際費	その他			自動車	住宅	その他
男　性	40.2	15.2	7.4	6.6	11.0	40.5	19.3	4.1	9.2	6.0
女　性	42.4	17.3	8.9	5.3	10.9	43.8	13.8	3.6	4.7	5.5
独 身 者	42.2	16.6	8.9	7.7	9.0	46.4	11.4	4.9	2.3	4.2
既 婚 者	40.8	16.1	7.8	5.0	11.9	39.9	19.3	3.3	9.4	6.6
民　間	41.1	16.5	8.0	6.0	10.6	42.6	16.3	4.5	6.4	5.4
公 務 員	41.8	15.8	8.7	5.8	11.5	41.1	17.1	2.1	8.3	6.7
24年夏計	41.3	16.3	8.2	6.0	10.8	42.2	16.5	3.9	7.0	5.6
23年夏計	39.6	18.0	8.8	5.2	7.6	44.7	15.7	4.2	6.9	4.6
22年夏計	38.7	16.2	8.0	5.7	8.8	43.7	17.6	4.5	8.4	4.7

年代別にみると、「消費」割合は 50 代が 43.7%で最も高い割合となった。20 代、40 代も 4 割を上回り、全体の「消費」割合を押し上げたことがうかがわれる。「貯蓄」割合は 30 代が 48.9%、20 代が 46.0%と高い割合を占める一方、40 代、50 代は 4 割を下回った。「返済」割合は 20 代が 10.5%と最も低く、年代が進むにつれて割合が高くなり、50 代は 22.1%となった。内訳をみると、20 代では自動車ローンの割合が高いのに対し、40 代、50 代では住宅ローンの返済割合が大きなウェイトを占めている。

(以上、6、図参照)

(6図) 年代別ボーナスの使途計画　(単位:%)

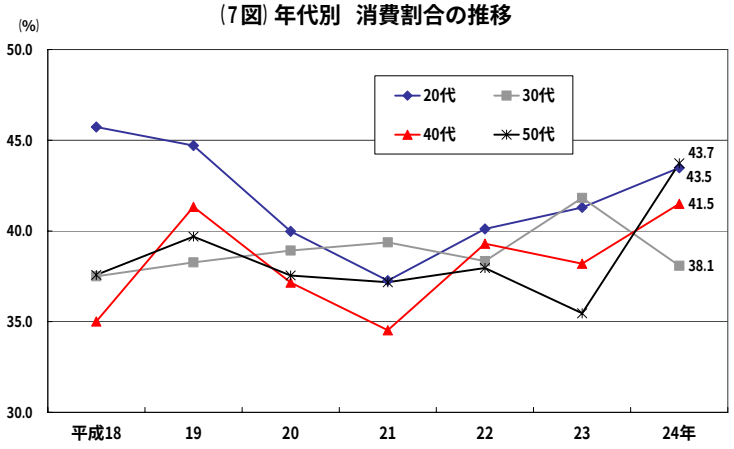


夏のボーナスについてそれぞれの割合の推移を年代別にみると、平成 24 年は前年に比べ「消費」割合が 50 代で 8.2 ポイント増となった。また、20 代、40 代でも増加がみられたが、30 代では 3.5 ポイント減となった。一方、「貯蓄」割合をみると、50 代で 9.4 ポイント減と大幅に減少したほか、20 代、40 代で減少、30 代で増加と「消費」と逆の動きがみられた。また、「返済」割合はほぼ横バイとなった。

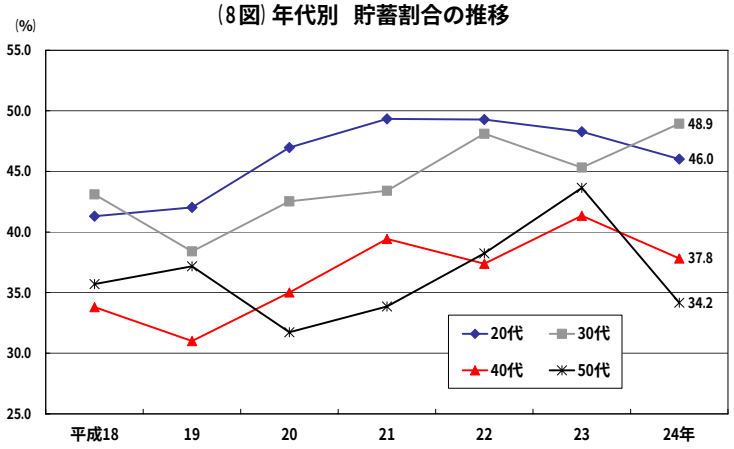
ボーナスの使途計画については、20 代の消費志向が引き続き上昇傾向にある。また、このところ消費に慎重であった 50 代で大幅な伸びがみられ、30 代を除く年代では「貯蓄」から「消費」へのシフト傾向がうかがわれた。

(以上、7、8、9 図参照)

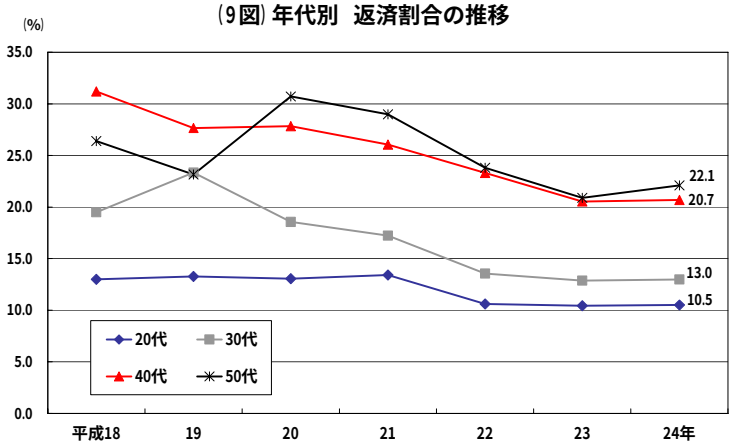
(7図) 年代別　消費割合の推移



(8図) 年代別　貯蓄割合の推移



(9図) 年代別　返済割合の推移



(5) 貯蓄の目的

――「貯蓄していれば安心だから」、「老後の備え」、「教育」が上位 3 位――

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が 42.0%で最も高く、以下「老後の備え」が 30.4%、「教育」が 28.7%などと続いた。昨年夏と同様、この 3 項目が上位 3 位を占め、順位も同じであったが、「安心だから」は昨年夏に比べ 2.7 ポイント低下した。このほかでは「旅行」が 3.1 ポイント上昇、「結婚」が 1.5 ポイント低下し、他の項目はほぼ横バイとなった。

男女別にみると、男性は「教育」の割合が「老後の備え」を上回っている。また、「住宅」の割合が高く、「旅行」、「病気の備え」は比較的低かった。一方、女性は「旅行」、「病気の備え」の割合が比較的高かった。独身・既婚別では、独身者は「安心だから」の割合が 5 割以上となったほか、「旅行」が 2 位となった。一方、既婚者は「教育」の割合が 4 割を超え 1 位となったほか、「老後の備え」、「住宅」の高さが目立った。

(以上、2 表参照)

（2表）貯蓄の目的 (複数回答)

(単位：%)

	男　性	女　性	独　身	既　婚	24年夏 計	23年夏 計	22年夏 計
住宅	17.4	11.3	7.9	18.0	14.3	13.9	11.5
教　育	(2) 31.0	(3) 26.3	4.8	(1) 42.1	(3) 28.7	(3) 28.3	(3) 31.6
結　婚	7.3	8.8	20.5	1.0	8.0	9.5	6.9
旅　行	14.2	28.5	(2) 26.2	18.7	21.4	18.3	23.1
耐久性消費財	14.2	13.2	14.8	13.1	13.7	13.0	11.6
病気の備え	8.9	14.7	10.5	12.6	11.8	12.6	14.5
老後の備え	(3) 26.3	(2) 34.5	(3) 24.5	(3) 33.7	(2) 30.4	(2) 30.6	(2) 32.3
安心だから	(1) 42.1	(1) 42.0	(1) 55.0	(2) 34.7	(1) 42.0	(1) 44.7	(1) 45.5

2．最近の暮らし向き調査

――暮らし向き指数、昨年冬に比べ 3.5 ポイント上昇――

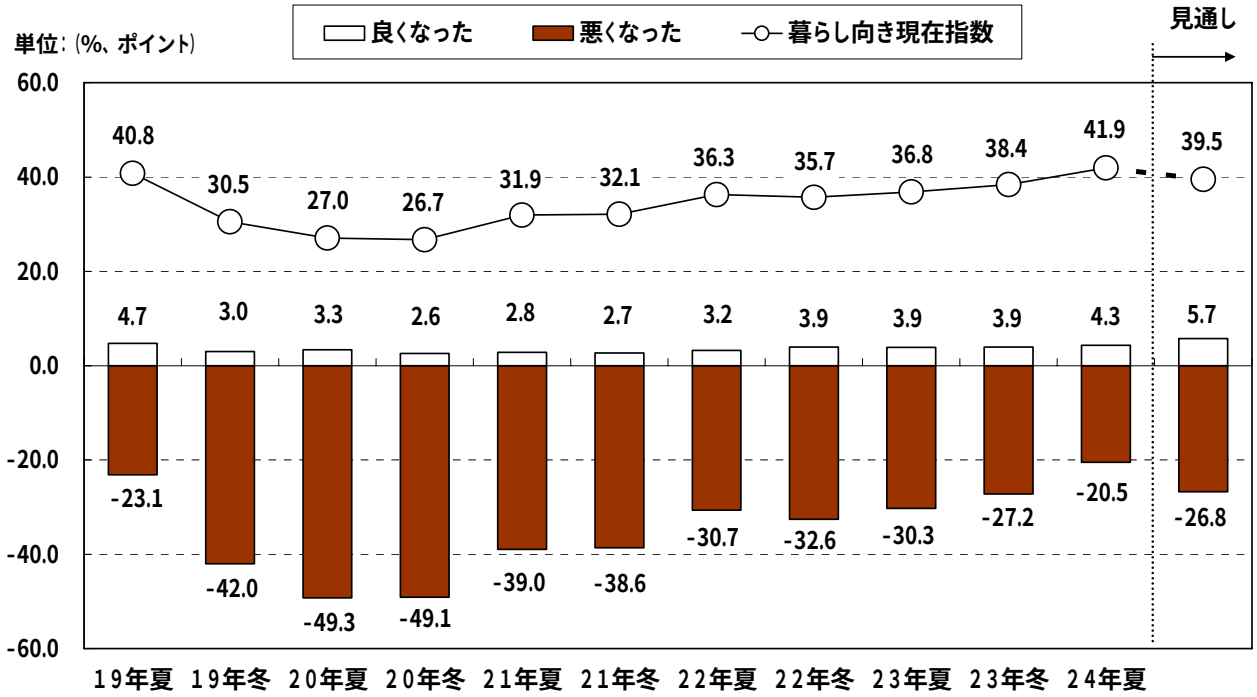
まず、「昨年の今頃に比べ、最近の暮らし向きはいかがですか」と尋ねたところ、「良くなった」が 4.3%、「変わらない」が 75.2%、「悪くなった」が 20.5%となった。この結果、「現在の暮らし向き指数」(3 表、注記参照)は 23 年冬に比べ 3.5 ポイント上昇し 41.9 となった。「良くなった」とする割合が 0.4 ポイント増加、「変わらない」とする割合は 6.3 ポイント増加した。依然として厳しさに変わりがないとする回答が大半を占める中、「悪くなった」とする割合は 6.7 ポイント減少し、暮らし向きの悪化に底打ちを感じている状況もうかがわれた。なお、暮らし向き指数が 40.0 を超えたのは平成 19 年夏以来 5 年ぶりである。

属性別にみると、「良くなった」とする割合は 20 代で 13.8%となったものの、他の属性は 1 ケタ台にとどまり、40 代、50 代では 1%を下回った。一方、「悪くなった」とする割合は、20 代が 9.6%と低かったが、年代が進むにつれて厳しい見方が広がり、50 代では 30.7%となった。

次に「1年後の暮らし向きはどうなると考えますか」との問いに対しては、「良くなる」が5.7%、「変わらない」が 67.5%、「悪くなる」が 26.8%となった。「良くなる」は 20 代で横バイとなったほか、他の属性全てで増加がみられ、全体では現在より 1.4 ポイント増加した。一方、「悪くなる」は全ての属性で増加し、全体では現在より 6.3 ポイント増加したが、比較的小幅な動きにとどまった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は「現在の暮らし向き指数」を 2.4 ポイント下回る 39.5 と、幾分低下する見通しとなっている。

(以上、10 図、3 表参照)

(10図) 暮らし向き指数の推移



(3表) 現在の暮らし向きについての見方 (属性)

(単位：%)

	現在 良くなった	→	今後 良くなる	現在 変わらない	→	今後 変わらない	現在 悪くなった	→	今後 悪くなる	現在 指数	→	今後 指数
男 性	4.9	→	6.9	73.6	→	65.9	21.5	→	27.3	41.7	→	39.8
女 性	3.8		4.6	76.7		69.1	19.5		26.3	42.1		39.2
独 身	7.4	→	9.6	79.3	→	73.1	13.3	→	17.3	47.1	→	46.1
既 婚	2.6		3.6	73.0		64.5	24.3		31.8	39.2		35.9
民 間	4.3	→	6.0	77.1	→	69.1	18.6	→	24.9	42.9	→	40.5
公務員	4.3		5.1	70.3		63.4	25.4		31.5	39.5		36.8
20 代	13.8		13.8	76.6		70.7	9.6		15.4	52.1		49.2
30 代	3.8	→	6.1	81.2	→	73.7	15.0	→	20.1	44.4	→	43.0
40 代	0.8		2.9	72.2		64.8	26.9		32.4	36.9		35.2
50 代	0.5		1.0	68.8		58.9	30.7		40.1	34.9		30.4
全 体	4.3	→	5.7	75.2	→	67.5	20.5	→	26.8	41.9	→	39.5

注) 現在指数＝「良くなった」×1.0＋「変わらない」×0.5＋「悪くなった」×0.0
今後指数＝「良くなる」×1.0＋「変わらない」×0.5＋「悪くなる」×0.0

以上

【調査要領】

○ 調査対象者　　県内在住の男女給与所得者

○ 調査時期　　平成 24 年 5 月下旬～6 月上旬

○ 配布･回収枚数　　配布枚数　1,000 枚

回収枚数　　931 枚 (回収率 93.1%)

回答者内訳

(単位:人、歳)

属性	男性		女性		合計	
20　代	87	(25.6)	102	(25.3)	189	(25.4)
30　代	147	(35.0)	148	(35.0)	295	(35.0)
40　代	113	(44.2)	132	(44.2)	245	(44.2)
50　代	104	(54.5)	98	(54.6)	202	(54.6)
独　身	137	(32.6)	189	(33.0)	326	(32.9)
既　婚	314	(43.2)	291	(43.7)	605	(43.4)
民間企業	298	(39.0)	376	(39.2)	674	(39.1)
公務員	153	(42.0)	104	(40.6)	257	(41.4)
合　計	451	(40.0)	480	(39.5)	931	(39.7)

注:( )内は平均年齢

※ 本件に関する照会先
財団法人 青森地域社会研究所
担当:野里和廣(TEL017-777-1511)